

滝上の人

全力で走り続けて

今回は、あけぼの町内会長 ポットをあてていきます。
そして、各地の市民マラソン 鈴木さんは、昭和9年、雄
大会に出場してきた鈴木寛 鎮内地区生まれの現在87才で
(すずき ゆたか)さんにス す。鈴木さんの実家は農家を



あけぼの町 鈴木 寛 さん

営んでおり、将来は学校の先生になりたいと思っていました。鈴木さんが10歳の頃、父親が他界。実家の農業を手伝いながら滝下小学校、中学校を卒業したそうです。当時は戦時中で義務教育は小学校まで、30人いた小学校の同級生も中学校を卒業のときは、10名以下だったそうです。「鈴木さんといえばマラソンで有名ですが学生当時からスポーツは得意だったのですか？」と尋ねると、当時は相撲、三角ベースボールはやっていましたが、それほどでも。ただ走ることに関しては早いほうだったと話していただきました。

中学校卒業後は、夏は土木業、冬は山で木材の伐採を中心に今でいうアルバイトをしていたそうです。昭和31年に営林署で働くこととなりその後、正職員となりました。本格的にマラソンを始めるきっかけとなったのは、この頃から体を動かすことが好きだった鈴木さんは、営林署の業務のかたわら昼休みにはテニス、仕事が終わると野球やソフトボールをしていました

が、残業があるとそれも出来ないことが。そこで昭和40年、鈴木さんが30歳を過ぎたころ早朝にマラソンを始めたこのことです。最初は1kmから、それから徐々に距離を伸ばしている。登校途中の小中学生から「一緒に走りたい」と言われ10人程度の児童と走ることに。大会に出るようになってからは、毎朝5kmの走りは続けました。「当時、どのような大会にでたのですか？」と聞くと、市民マラソンに出場するため、浦幌、羽幌、旭川、名寄、北竜、興部などなど。大会に出場するために各地を飛び回っていたそうで、多い時には月に5回も大会に参加したとのことでした。成績は優勝すること数回、上位入賞は数え切れないほどだそうです。



大会のゼッケンで作ったはっぴ

一番、印象に残っているのは2008年にホノルルマラソンに参加したこと。成績は5時間台で完走し、23100人程度の参加者で10915位。その後75才まで各地の大会には参加していたとのこと。また、鈴木さんは平成7年から町内会長に就任。「これまた27年間もされていますが何か印象に残っていることはありますか？」と尋ねると、昔、町内会の交差点で交通事故があったことから、その箇所には信号機をつけるために走り回ったこと、また滝上町開基100周年のときには色々な行事を行ったことを話してくれました。最後にお体の方は大丈夫ですかと尋ねると、悪いところはなく、丈夫な身体に生んでくれた親に感謝していると答えてくれました。

鈴木さん、これからもお体に気を付けて全力で走り続けてください。



ホノルルマラソン
完走メダル